

される 灰重石鉱床が存在することである。

オーストラリアのタングステン鉱は ほぼ年間2,500トンが生産され この中の 1/2が 灰重石であるが この灰重石の殆んどが このキング島の鉱床から生産されていることから タスマニア島 オーストラリア全体からみて特筆すべき鉱床区の一つとされるものである。

現在の推定埋蔵鉱量 約200万トン (WO₂ 0.52%) と考えられている。

以上のようにオールドビス紀からシルル紀の花崗岩の貫入にともなっては 北西部区域のみならず 東部地域にも 多くの鉱床が分布しており アペフォイル鉱床 ストレーズクリーク鉱床 などはその代表的なものである。

いずれも 鉱脈型の鉱床であるが また地表部には二次残溜型砂鉱床の分布も知られており この地域では 砂錫 砂タングステン鉱なども 砂金と同様に漂砂鉱床として採掘されている。

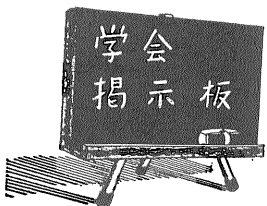
最後に タスマニアの鉱工業発展の基礎になっているものに 豊富な電力資源があげられていることは衆知の事実である。

西タスマニア地域の急峻な山岳地帯と豊富な雨量により 長期計画による 水力発電計画が 推進され 南部のゴードン河発電計画は シドニー近郊のワラガンバダム の7倍 スノー山開発計画の中のプロジェクトよりも大きくなるものとされている。

また 電力コストも世界最低の基準がまもられ 全オーストラリア平均の約1/3 日本 の工業用電力コストの約1/2であり これらの 低コストの電力エネルギーを背景として コマルコ社による ベルベイアルミニウム工場 E. Z. 社のリスドン ローズベリー工場 バーニーのバルプ工場 その他数多くの製造工業が発達している。

このような事実から タスマニアは シドニー メルボルンなどとは異なった形のエネルギー開発が進められている。一つの代表的な工業圏として注目されており ニュージーランド南島 南端のブラフに建設が計画されている アルミニウム工場の場合も タスマニアにおける安価な電力を利用するケースを見習ったものであり 今後の鉱工業のあり方の指針を与えている点に 考えさせられる点が多い。

(筆者は 鉱床部 現在トルコ国へ派遣中)



・日本岩石鉱物特殊技術研究会

1. 昭和48年8月4日 (土)~6日(月)
2. 第16回 研究発表会 (金属 非金属 構造地質 耐火物等の薄片 研磨片の作成に関する講演会)
3. 東北大学理学部地学

第2 (岩石鉱物鉱床学教室 仙台市青葉山字青葉)

4. 日本岩石鉱物特殊技術研究会
5. 神奈川県川崎市高津区久本135 地質調査所内
日本岩石鉱物特殊技術研究会
☎ (044) 86-3171 (内線 211)

・日本地球化学討論会

1. 昭和48年10月1日(月)~3日(水)
2. 1973年地球化学討論会
3. 秋田大学 (秋田市手形学園町)
4. 日本地球化学会・日本化学会
5. 東京都杉並区高円寺北4-35 (〒166)
気象研究所地球化学研究部内 日本地球化学会事務所
☎ (03) 337-1111 (内線 75)

◎課題討論

1. 黒鉛鉱床の地球化学

2. 有機性鉱床の地球化学

}招待講演のみ
他に一般討論

・日本地学教育学会

1. 昭和48年7月30日(月)~8月2日(木)
(大会7月30日・31日)
2. 昭和48年度全国地学教育研究大会・日本地学教育学会第27回全国大会
3. 鹿児島市中央公民館・鹿児島文化センター
4. 日本地学教育学会 ほか
5. 鹿児島市上之園町23-1
鹿児島県立甲南高等学校 地学教室内
大会準備事務局 今村隆夫 ☎ (0992) 54-0175

・日本分光学会

1. 昭和48年8月1日(水)~4日(土)
2. 第9回夏期セミナー
3. 新潟県妙高高原松ヶ峰ホテル
4. 日本分光学会
5. 東京都新宿区百人町3-25-2
応用光研工業株式会社 (蚕糸研ビル)
日本分光学会 ☎ (03) 362-7881

[注] 1. 開催年月 2. 会合名 3. 会場 4. 主催者
5. 連絡先 (掲載順位は原稿到着順)